

3. 寄 稿



定年退職を迎えて

総括技術長
亀田 昭雄

平成 25 年 3 月末日をもって定年退職を致すこととなりました。多くの教職員の皆様にご指導ご鞭撻を賜りまして、この日を迎えることとなり心より御礼申し上げます。

技術職員としての第一歩は、工学部機械工学科内燃機関研究室で担当した「ディーゼルエンジンの性能試験」の学生実験でした。エンジンオイルや燃料油の点検、実験の準備及び計測方法を学生に指導しました。高速で回転するエンジンの実験でしたので学生に怪我のないように心掛けました。当時の実験の計測は手動で行うものが多く温度計やストップウォッチを使い、出来るだけ正確に測定するように心掛けました。燃料消費の計測では、学生が 2 人 1 組で 1 人がガラス製のコックを操作し燃料が消費されポイントになると 1 人がストップウォッチで規定の燃料消費のタイムを測定し、1 回目と 2 回目とのタイムに誤差があると何度も繰り返し測定を行いました。操作が煩雑で学生に旨く伝わらず苦勞しました。そのうち自動で計測できるように計測器械を設置して誤差の少ない計測が出来るように改善を行いました。学生実験で使用したエンジンも 40 数年使用して修理が必要となりメーカーに問合せしても部品はないとのことで、メーカーに就職した卒業生に依頼して部品を製作して頂き何とか実験を継続する事が出来ましたがこのエンジンも私の定年と同時に引退となり大学の博物館へ寄贈することとなりました。また、実験装置や燃料分析装置の作製や改良を行い、今でも学生が燃料分析を行っている装置もあり、JIS 規格の図面を見ながら製作したことを思い出します。不器用な私も先輩技術職員や同輩に工作機械での加工技術や溶接技術を指導して頂き実験装置製作や装置補修など行って参りました。また、研究支援では、ヒマワリ油での BDF の研究を行い、実家の畑にヒマワリを栽培して、搾油し燃料を作製し燃料の分析を行って一応の成果を得られ研究に寄与することができました。

学生との思い出もたくさんあり、夏休みになると開闢岳に登山し、帰りに、開闢岳麓や山川の温泉に入り、鏗のたたきを頂くという、耐暑訓練なるものがあり、私も十数回登山しました。この開闢岳登山は、現在も受け継がれて毎年学生が登山しております。

また、学生と教職員とのソフトボール大会が開催され、日中はソフトボール、夜は懇親会と仕事やスポーツで学生との交流も盛んに行いました。

また、自身も大学職員ソフトボールチームにて、チーム一丸同じ目標に向かって練習や試合で汗を流したことや同僚職員や学生と共に老人保健施設にボランティア活動で慰問したことが懐かしい思い出です。

教職員の皆様方や多くの学生に支えられこれまで勤務出来ましたことに深謝致しますと共に、今後とも理工学研究科技術部のご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い致します。

末筆ながら鹿児島大学大学院理工学研究科の益々の隆盛をご祈念申し上げます。

定年退職を迎えて

生産技術系
倉内 光弘

私が大学に採用されたのは昭和 50 年 4 月です。

工学部機械工学科材料力学研究室に配属になり、学生実験、教官の授業の資料作り、研究支援、物品購入、伝票処理と仕事の内容は色々でした。

学生実験は静ひずみの測定・四点曲げ試験により、単純曲げを受ける真直ばりのひずみをロガーメイトを使って測定し、フックの法則を用いて各材料の縦弾性係数を求めるものであった。ひずみゲージを実験用供試はりの上下面に接着する、実験用供試はりを、70cm 隔てて平行に置かれたナイフエッジ上に直交するように置く、荷重装置を供試はりの所定の位置に設置する、各ひずみゲージのリード線を、ロガーメイトの所定の端子につなぎ、ロガーメイトの平衡回路のバランスを自動的にとる、荷重装置に取り付けられた荷重皿に、用意してある重鎮を 1 個ずつ静かに載せ、その都度各点のひずみの値を読む、この操作を重鎮全部載せ終わるまで続ける、次に、重鎮を 1 個ずつ静かに取り去り、その都度各点のひずみを測定する、最初と最後の零点は必ず記録しておくこと、断面寸法とし、ひずみの測定結果をコンピュータに入力します。

これは平成 10 年まで行ない、その後は、流体力学研究室の学生実験で、圧力降下、速度分布、レイノルズ数そして管摩擦係数などについて考察することにより、管内流れにおける現象を理解する。静圧および管出口での速度分布を求めるための実験装置は、送風機、弁、プレナム室、ベルマウス、直円管、微差圧計、ピトー管、グッチングマンノメータ等から構成されている。本実験では、管入口から下流方向に 200mm 間隔に設置したピトー管につなげられたグッチングマンノメータの読みから速度を算出し、管半径方向の速度分布が求められる。他にアルコールの密度を求めるために比重計、大気圧を求めるための水銀気圧計、空気の湿度を求めるための乾湿計を使用することなどを行ってきました。

仕事以外では、主にスポーツに接して来たのが思い出であります。鹿児島大学では、ソフトボール、ウォーキングをやって来ました。

ソフトボールは学内大会があり、優勝したこともあり、その後の祝勝会をしたのがいい思い出です。鹿児島大学大学院理工学研究科技術部の益々の発展を祈念いたします。

「ありがとうございました。」

退職を迎えて

生産技術系
大山 謙二

定年まで1年を前にして平成25年3月末日をもって、早期退職します。

昭和52年1月1日付けで工学部機械工学科に採用され36年の月日が過ぎました。

機械工学科水力工学講座に配属になり、実験装置の製作、改良等や修士・学部生の卒論・修論等の実験補助、学生実験の補助などが主な仕事でした。高校を卒業し民間企業で約3年働き、畑違いの大学という教育現場に採用され、教員・学生相手の仕事で、それまでの環境とは180度違うところであったので、大変戸惑ったことを思い出します。

36年間の工学部での仕事上やりがいのあった(辛かった?)事は機械工学科水力実験室の大改造で、当時の野崎教授の強い希望により実験室建屋内を中2階に作り替える事でした。夏休み期間中約2ヶ月に渡り、修士の学生・中央実験工場の技術職員・機械工学科の技術職員の方々の協力のもと、大変な労力を頂き、どうにか夏休み期間中に完成にこぎつけました。途中で助教授と助手とで中間の高さをどうするか2週間ほどもめてしまい、工期が大幅にずれこみ焦ってしまった事を思い出します。専門の業者に依頼すると工事費350万円程度出費のところを60万円ぐらいの経費で済み、大幅な経費削減ができたと記憶しています。その外にも学生控室2件の改造などを学生の手伝いを貰いながら手掛けてきました。いまではいい思い出になります。

平成11年4月からは新設された生体工学科に移動になり、化学系学科で知識が全くないところであり教員も5ヶ所程度の建物に分散しており、書類等の回覧など大変だった事を記憶しています。鹿児島大学工学部での36年間に、大学も国立から独立行政法人という聞きなれない機関に移行し、法人化後の平成17年4月より研究室職員から技術部という組織に変わり、ほとんど研究室内だけの仕事をしていれば良かった時代から、技術部という組織の中で出前授業等の活動を担当補助して行く事になり、慣れない事が多く戸惑う事が多々ありましたが、なんとかやってこれたかなと思っています。36年の間、工学部技術部職員の方々大変お世話になりました。理工学研究科技術部がこれからもますます発展する事を祈念いたします。ありがとうございました。

1年間を振り返って

システム情報技術系 比良 祥子

1年半の任期付き職員を経て、平成24年度4月1日より新規採用の運びとなり、この1年間新たな気持ちで業務に携わってまいりました。業務を通じて多くの方との出会いがあり、様々な事を学ばせていただきましたが、これらは私にとって大きな財産となったと思います。

年度始めの4月には、建築学科新サーバー立ち上げと技術部業務依頼システムの新規導入作業を担当し、どちらも障害が発生しないように気を張って作業をしておりましたが、運用が停止することなく無事にこの1年間を過ごすことができました。これも協力して下さった先生方や技術職員の皆さまのおかげだと感じています。

教育支援では、情報生体システム工学科の工学実験やプログラミング演習の授業補佐を行い、学生の皆さんと接していく中で、どのように説明すれば理解が得られるのか、経験を重ねる事でだんだんと身に付いてきたような気がします。また研究支援では、実験用機器のソフトウェア制作や学生へのプログラミング指導、8月には学会にて発表を行い、自身にとって良い経験をさせていただきました。更に今年度は地域貢献WGメンバーとして、様々な活動に参加しました。その中で母校の小学校で出前授業を行う事ができ、懐かしい母校に感慨深い思いになり、とても良い思い出となりました。

体調不良によりご迷惑をお掛けした事もありましたが、周りの職員の皆さまに支えられて、充実した1年間を過ごすことができました。来年度も、支えて下さった多くの方への感謝の気持ちを忘れずに、技術職員として地域社会へ貢献できるように頑張っていきたいと思います。

システム情報技術系 谷口 遥菜

私が4月に鹿児島大学理工学研究科技術部に採用されて1年がたちましたが、この1年はあっという間でした。私の1年目の主な業務内容は共通教育化学実験の補助で、初めの頃は器具・試薬の保管場所がわからなかったり実験の原理を勉強し直したりと大変でしたが、先輩方や先生方に教えてもらいながら乗り切ることができました。年度の初めには活動報告書の作成にも携わり、1年間を通しては出前授業WGの仕事にも力を入れました。出前授業では、まず従来のテーマのやり方を覚えて事前準備に積極的に参加しました。年度のはじめ頃は化学実験の授業と出前授業の日が重なることが多く、出前授業当日の参加ができませんでしたが、前期授業の終わり頃には小学校に出向くことができ、演示も担当しました。その中で新テーマの提案も行い、子どもたちに科学の面白さを知ってもらおうと同時に私も改めてその楽しさを感じました。

私生活の面では、鹿児島に住むのは初めてだったので初めの頃は想像以上の灰に驚きました。職員総出で学内の灰掃除をしたのも初体験でした。初体験ばかりの1年でしたが、無事に過ごすことができ本当に良かったです。次の1年は、もっと充実した1年になるように仕事も私生活も頑張りたいです。



生産技術系 伏見 和代

技術職員としての最初の一年は、毎日が新たな挑戦の連続で過ぎ去ってみるとあっという間の一年でした。この年齢になると、通常ならどの職場でも「即戦力」としての力を求められる中、畑違いのところからやってきて、それもすぐには役に立ちそうもない私を温かく見守り教育して下さった技術部の諸先輩方には、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。正直なところ、工具や工作機械の使い方もわからない状態で、それに加えて遠方からの通勤や、幼いわが子の面倒、さらには昨年10月から再開した学生業で、焦りや不安でいっぱいになり何度かくじけそうになることもありましたが、不思議なことに、職場に着くといつの間にか明るい気分を取り戻す、そんな毎日でした。今後は、周囲への感謝の気持ちを忘れずに、明るく元気に、一日も早く技術部員としてお役に立てるよう、努力していきたいと思います。

新規採用者紹介

生産技術系

第三技術班	技術職員	種田 哲也
	技術職員	小原 裕也
	技術職員	井崎 丈
第四技術班	技術職員	児島 諒昭